



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために  
2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ

尾張旭ロータリークラブ

Weekly

・会長 西尾 輝久  
・幹事 森 和実  
・会報 福岡 健  
・事務局 尾張旭市商工会館  
・例会日 毎週金曜日 12:30  
・例会場 〒488-0801  
尾張旭市東大道町原田 2570-3  
TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945  
E-mail : owariasahi@mte.biglobe.ne.jp  
URL : http://www.owariasahirr.jp/

**本日 第1985回 2011年10月28日(金) No.1874**

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング 「我等の生業」

卓話担当者:プログラム委員会

卓話者:尾張旭市教育委員会  
教育長 玉置 基 様

演 題:「教育の課題について」

**前回 第1984回 2011年10月21日(金) 記 録**

斉 唱:「日も風も星も」  
来訪者:地区米山記念奨学会副委員長  
豊田中 R C 伊藤 敦夫君  
瀬戸 R C 水野 和郎君  
出席者:会員30名中26名出席 出席率86.67%  
前々回補正出席率は10月8日分96.67%

ーより4RCに対して出席率、会員数の増減、男女の  
数、クラブの方針、そしてクラブの現況、問題点など  
を質問された。当クラブについては出席率は大変良い  
が、会員数を50名に向けて努力してほしい、又2000回  
例会で1泊旅行をするのは会員間の親睦をはかること  
が出来るので良いことであるとアドバイスをいただいた。

**会長あいさつ** 西尾 輝久

「ガバナー公式訪問」

とうとう中日ドラゴンズが10ゲーム差をひっくり返して逆転でリーグ優勝を果たしました。中日ファンの皆様おめでとうございます。何でも日本シリーズで勝つと219億円の経済波及効果があるそうです、全員参加で応援しましょう。さて国際ロータリー(クラブに非ず)、即ちRIはロータリー全体の管理機構で全世界のロータリークラブを会員として組織されています。一方地区というのは国際ロータリーという組織の一部と解すべきで、地区の管理者である地区ガバナーは国際ロータリーの役員であるので、いわばその出先機関という性格をもっています。すなわちガバナーは国際ロータリーを代表していますが、地区内クラブの代表者ではないということです。ですから地区の管理運営はRI役員である地区ガバナー一人の責任にかかっています、そして地区役員はすべてその年度のガバナーの補助者であり、ガバナーの委嘱によるもので、決して地区内クラブの代議員的性質は持っていません。そのガバナーと各クラブが公式に接触する年1回の大切な機会がガバナー公式訪問です。当日のグレイセルにおけるガバナー訪問ですが、例会に先立ち11時30分より4RCの会長、幹事との会談では、はじめにガバナ

**おめでとう**



今月の結婚記念日の会員です。



今月の誕生日の会員です。

**ロータリー財団月間**

	11月 4日(金)	11月11日(金)	11月18日(金)	11月25日(金)
会 予 定	卓話担当者:大嶋一二三君 卓話者:桜井雅博 <sup>ボク</sup> 弘 委員長 演題:「新入会員との 対談」	卓話担当者:Q-列- 財団委員会 卓話者:地区グロバ <sup>ル</sup> 補助金 委員長 籠橋 美久君 演題:Q-列-財団月間に 因んで」	職場例会 担当委員会: 職業奉仕委員会 於尾張旭市新給食セ <sup>ン</sup> ター	移動例会 担当委員会: 新世代奉仕委員会 於愛知県立 旭野高等学校

・結婚記念日

10月 4日 富田 晃君  
 10月 6日 大竹 薫君  
 10月10日 安藤 公爾君  
 10月10日 唐井 仁一君  
 10月10日 伊豆原浩二君  
 10月27日 箕輪 良孝君  
 10月27日 松下 洋一君

・誕生日祝福

10月 6日 井田 武憲君ご夫人 えつ子様  
 10月14日 安藤 公爾君ご夫人 美子様  
 10月18日 福岡 健君ご夫人 博子様  
 10月22日 古橋 裕志君  
 10月25日 大竹 薫君ご夫人 みさ子様  
 10月31日 高島 昇君ご夫人 美代子様



## 幹事報告

- ・10/17 尾張旭市市民ゴルフ大会 於森林公園ゴルフ場 桜井市民ゴルフ実行委員出席。
- ・本日の3分間スピーチ 水野 幸彦君
- ・例会変更お知らせ：別紙

## ニコボックス

今日はよろしくお願ひいたします。(瀬戸RC)  
 水野 和郎君

結婚記念日を祝っていただき。

唐井 仁一君、松下 洋一君、箕輪 良孝君

誕生日を祝っていただき。古橋 裕志君

家内の誕生日を祝っていただき。

井田 武憲君、高島 昇君、福岡 健君

地区米山奨学会副委員長 伊藤敦夫様をお迎えして、卓話を楽しみにしています。谷口 伸夫君

西尾 輝久君、森 和実君、大嶋一二三君

桜井 雅博君、高島 昇君、服部 右子君

古橋エツ子君、松原 樹君、山田 直樹君

3分間スピーチをやらせていただきます。

水野 幸彦君

岡山西南RCでメイクアップしてバナー交換してまいりました。11月には徳島へ行ってきます。

舟橋 龍秀君

水野君の3分間スピーチ、楽しみにしています。

加藤 清久君

10月18日に2人目の孫が誕生しました。男の子です。鼻筋が通ってキリリとした顔立ちです。私には似ていないかも・・・ 森 和実君

谷口先生に大変お世話になりました。赤面の至り、まさにこのことです。加藤 清久君

気温の変動が激しいこの頃です。体調管理にご留意下さい。勝屋 弘忠君

お忙しの君 水野 幸彦君

## 卓話

R I 第2760地区 米山記念奨学会 副委員長  
 伊藤 敦夫君  
 (財)ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を

志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間最大の奨学団体です。

1967年に財団法人としての設立認可を受け、これまでに世界119の国と地域出身の約16500人の留学生を支援しています。さらに、ロータリー米山記念奨学事業の最大の特徴は、世話クラブとカウンセラーによる心のかもった支援にあります。

この制度は他の奨学制度にはないものであります。奨学生は最低月に1回RCの例会や行事に参加するなどしてロータリアンとの交流を図ります。奨学生は大学生活では味わえない地域の日本人との交流の機会であり、ロータリアンにとっても奨学生と触れ合う事で、米山事業への理解を深め、更なる支援の意欲に繋がっていると思います。人を知り、文化を知りお互いへの関心を深めて、小さな平和の創造を実践していく、世話クラブ、カウンセラー制度こそ、世界に平和の種を蒔く人材育成事業がロータリー米山記念奨学事業の神髄ではないでしょうか。

本日は世話クラブとカウンセラーの役割、それから奨学生選考と学友について少し話をさせていただきます。

まず、世話クラブとカウンセラーの役割。奨学生には単に奨学金を支給するだけではなく、人生経験豊かなロータリアンがカウンセラーとしてケアにあたり、所属するクラブ全体で受け入れをし、交流を通してロータリー精神を学び、その活動や日本人の心に触れる機会が奨学生には与えられるはず。カウンセラーやロータリアンの支えや、ロータリー精神と関わる中で、ロータリー運動の良き理解者となり、世界平和に貢献できる奨学生に導き育てる事も、世話クラブやカウンセラーの役割ではないでしょうか。クラブ全体で受け入れるムード作りは、とても大事な事だと思っています。カウンセラー1人が世話をするのではなく、クラブ全体で交流が出来る事が一番ではないでしょうか。これにはクラブ会員や事務局の理解と協力が必要になると思います。

奨学生が例会などに参加したときなど「君(さん)」と声を掛けてくださると、緊張している奨学生の心がほぐれるに違い有りません。交流は個人から始まると思っています。声を掛け気掛けてくれるロータリアンが傍にいる実感は奨学生にとっても大きな励みになる事は間違いのないでしょう。様々な交流は大学生活では体験できない人物、文化交



流などは、地域参加への糸口になるはず。このような経験が将来、ロータリー運動の良き理解者となり、平和貢献の役割をしてくれると思います。奨学生とロータリアンとの交流を通し相互の信頼を育む役割を担っているのが、米山奨学生であり、カウンセラーやロータリアン

ではないでしょうか。ですから、奨学生の奨学期間が終了したら奨学生との関係もそれで途絶えるのではなく、出来れば一生のお付き合いが出来るような奨学生を導き育てる事も世話クラブやカウンセラーの役割ではないでしょうか。

次に奨学生選考について少し話をさせていただきます。奨学事業の価値は「どんな奨学生を採用したか」で決まり、更に意味のあることは「どんな奨学生に育てたか、育ててくれたか」であると思います。将来、日本と世界を結ぶ懸け橋となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材育成事業であり、求められる優秀性は

学業に対する熱意や優秀性は勿論の事

異文化理解

コミュニケーション能力への意欲や能力に優れている事

ロータリー運動に対する関心度、協調性、将来ビジョン、や日本語運用能力などを基準に日本と世界を結ぶ懸け橋となってくれる奨学生を選考いたしております。

まず地区が行う事は7月に入り指定校と学校別被推薦者の人数を決めなければなりません。

従来の大学はもとより、新規指定校の追加、同時に地区の新規採用の米山奨学生を満たす為に、どの大学から何人推薦して貰うか、米山奨学会が示す全国統一の基準や地区独自の選考目安、などを地区委員会において、ガバナー、地区幹事、米山担当ガバナー補佐、米山理事及び地区委員会メンバー15人で協議し決定します。被推薦者は大学の指導教官の推薦状を貰い、小論文や研究計画書など必要書類をすべて日本語で記載し大学へ提出、米山奨学会本部に送られます。本部において資格審査を行い11月中旬地区に送られ、12月地区で更に資格審査、第一次書類資格審査、第二次書類選考及びグループ分けを行い、1月に入り最終面接試験と選考委員会において合否判定会議を開き合格者を決定します。

奨学生の採用人数は、皆様からの寄付額に応じてその年の人数が決まります。2012-2013年度の採用数は新規採用が29名継続4名で計33名です。最終面接試験にはおよそ90名、合格者は29名です。採用には国、地域、大学のバランスを考え、一カ国や一大学に偏らないように配慮し合否を決めております。面接に際し人権を侵害し、差別感を与える言動は避け、差別語、不愉快な言動、身体的障害、セクシャルハラスメントに関わる言動は避け、政治、宗教、民族、生活環境、経済状況に関する内容は避けるな

ど、面接官は常に公平を期して奨学生を選考しております。合格者を決定した後、クラブ選定に入ります。各クラブの過去10年間の受け入れ状態を考慮し、採用された奨学生の大学や地域などを考慮し世話クラブを決めさせて頂いておりますので、クラブにおいて是非受け入れをお願い致します。

最後に米山学友について少し話をさせていただきます。学友会は奨学生のときは勿論、卒業した後、学友とて交流を深める会であります。日本には30地区の学友会があり、海外では台湾、韓国、中国の学友会が盛んに活動して見えます。台湾学友会は3年ほど前から日本の米山の制度を取り入れ日本から台湾への留学生に対し、奨学金を支給し支援しています、わずか2人では有りますが、この先留学生の数も増えていく事でしょう。中国の学友の姫軍さんは毎年50万ずつ米山に対し寄付をなさって見えます。韓国の学友では駐日大使で活躍しています。

米山学友が中心となって設立されたロータリークラブが台湾に二つ日本の東京に一つあり、それぞれロータリー活動を行っています。

このように日本と世界を結ぶ懸け橋となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材育成である米山奨学事業をどうぞ宜しくお願い致します。最後のお願い事で恐縮ですが、米山事業は全国で毎年約800名の留学生を支援する為には平均で一人当たり2万円の浄財が必要となります。皆様お一人おひとりのご協力をお願いいたしまして、本日の卓話を終わりたいと思います。ご清聴有難うございました。

## バナー交換

舟橋 龍秀君が  
10月11日(火)  
第2690地区  
岡山西南RCで  
バナー交換を行いました。



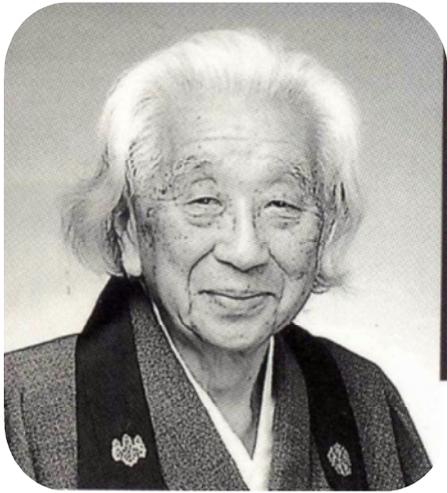
## 奉仕の理想 渾沌 - 活力再生の道 -

より転載

著書 佐藤 千壽

日本のロータリーソングに「奉仕の理想に集いし友よ………」というのがあって、これは日本全国、何所のクラブでも一番よく唄われていますから、恐らくこれを知らないロータリアンはいないでしょう。

ところで、然らば「奉仕の理想」= ideal of service = とは一体どんな理想なのか? と質問されたら、果たして幾人が明快に即答できるでしょうか。中には



「奉仕という理想なのだ」と言い逃れる人がいるかも知れませんが、それならこちらは、ロータリーで唄える

その奉仕とはそもそもどういうことなのか？と問い返しましょう。まさか飲食店のモーニング・サービス

やバーゲンセール、の奉仕価格みたいなことを考えているとは思いますが、今の状況から推測すれば、返ってくる答えはせいぜい寄附とかボランティア活動とか、そういう善意の社会奉仕活動でしょう。あるいは精神論で「相手の身になって行動すること」と上手な答えを出す人もあるでしょう。

然しそんな程度のことなら、何も高い会費を払ってロータリーという大組織に加入し、毎週一回貴重な時間を割いて集まり、「力むるところは向上奉仕……」などと大声張り上げて合唱するほどのこともありますまい。

私をして言わしめれば、理想と言うからには、現実とは違うずっと次元の高いものでなければなりません。だからこそ、そういう高い目標に向かって努力する必要がある——その志を肝に銘ずる為に、向上奉仕……と事があるごとに唄うのです。

では、次元の高い「奉仕の理想」は何か。それはただ漠然とした「奉仕という理想」などではなく、

「ロータリーが理想として掲げる奉仕」であって、ロータリー存立の極性軸の上に立つ理想です。然らばその極性軸が何処にあるかとなると、ロータリーが職業人、就中、実業人の組織であると基本構造を否定しない限り、拠って立つ軸足は各人の職業にあるのですから、極性軸となる理想的な奉仕活動とは、各人がその職務において“*He Profits Most Who Serves Best*” = 最もよく奉仕する者、最も多く報われる = という一語に集約されるのです。

事業を経営する者が利益を追求するのは当然の衝動であり、また当然の責務でさえあります。然し現実の経営社会は必ずしも「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」様にはなっていません。寧ろ「正直者がバカをみる」というのが現実の姿でしょう。

そこでロータリーは、そういう現実を一步でも二歩でも、奉仕する者が報われる理想社会に近付けようとしているのです。これが正に「奉仕の理想」ではないでしょうか。

そして、そういう理想を実現する為には、この理想に共鳴してくれる同志をふやさなければならぬ。自分独りが如何に高い志を持っていても、社会の大勢にはかなわないからです。ロータリーではFellowshipとい

う言葉がよく使われますが、Fellowは単なる友達 = Friend = ではない、同じ信仰、同じ志を持つ同志のことを言うのです。そういう同志が沢山集まらなければ我々の理想とする社会は築けません——だからこそ会員増強はロータリーに取って永遠の課題なのです。私はガバナー就任当初から今日迄、終始一貫そういう

見地で会員増強を説いてきました。従って最初に質

があり志あり——志を同じくする者の増強です。ところが添加の大勢は目的を見失って迷走する増強拡大になってしまいました。要するに極性軸が崩壊してしまった為に、ロータリーという球体が正しく回転しなくなったのです。このままでは風のまにまに浮遊する巨大風船と化してしまうでしょう。

ところでこういう迷走の原点は無論官僚組織化した国際ロータリーにあるのですが、有力な構成員として国際的に強い指導力を発揮すべき日本側にも責任があります。そして、日本のロータリアンの腰が据わらない原因の一つに、ロータリー憲法とも言うべき、The Object of Rotary の日本語訳であります。何時頃、誰がこんな翻訳をしたのか調べてもみませんが、恐ら

く明治生まれ老先輩が、ただ綱領という如何にも漢語に引かれてこんな訳文を作ったのだと思います。

然し綱は物を括り結ぶ太い糸で、領は要領、領域など

という熟語でも分かる通り単なる仕分けです。これを英語に戻してみれば essential-points, principles, platform で、少し重く表現したところで code でしょう。

そんなわけで、前文に続く四項目も単に四大奉仕という呼称で同格に並列理解され、それによってまた不毛の論議を招く様になったのです。つまり Object を Platform に轉化してしまった為、四大奉仕はロータリーという列車の四つの Platform = 発着場 = に過ぎなくなりました。そうすると、これはもう政界と同じで、

族議員が次々現われ、路線が足りない、もっと増やせ、となって五大奉仕、六大奉仕などと言出します。単語を読んだだけで文意を理解していない翻訳者の罪です。

然し原典の Object はそのままずばり、目的ではありませんか。ロータリーが遠心力をもって回転拡大してゆく為の極性軸です。ロータリーが迷走して方向が定まらなくなったのはこの羅針盤が狂ってしまった為だ、という外ありません。

私的な餘談になりますが、一昨年、『ロータリーの友』編集局から、「綱領」が難しくて分かりにくい聲が高いから、易しい言葉に直してみてくれないか、という依頼がありました。然し先輩が作り、そして歴史的に定着している言葉を変えるというには色々柵がつきまといます。そこで平素から翻訳は一種の創作であり、また解釈である、という持論を通して私は、座興のつもりで思いきった試作をしました。発想の原点は、「お爺ちゃん、ロータリーって何をすること？」と孫に聞かれた時どう説明するか、ということで、標題も「綱領新訳」などではなく、「小学校でお話するロータリーの綱領」という様に軽い口上にしておきました。